

北海道社会保険病院だより

平成15年10月15日 第2号

当院小児科の紹介

主任部長 澤田 博行

小児科の澤田と申します。当院には4人(11月からは5名になります)の小児科医がおります。代表して当院小児科の紹介をさせていただきます。

北海道社会保険病院の小児科は昭和30年に開設されました。初代部長は南部春生が当院小児科の基礎を築き、その後、岡洋瑚、石井敏明が継承し、現在の澤田に部長は変わりましたが、その伝統は受け継がれ今に至っております。現在北海道社会保険病院小児科の基本方針は「地域医療への貢献、子育て支援、の2つです。」「地域に密着した病院であること」は病院全体の目標でもあり、当院医療連携室を介して周囲医療機関との密接な関係を維持すべく努力しております。また少子化と相まっ



て子育て支援は益々その重要性が指摘されていることは周知のことです。北海道社会保険病院小児科で行われている医療の主なものを紹介いたします。

【周産期・新生児医療】

病院が新築されたのを機に北海道周産期医療システムに参加しており、出産以前に産婦人科医療施設からの紹介による母体搬送を、年間20〜30例を受け入れ、院内出生児と併せて約80例の病的新生児をお世話しております。

【小児循環器疾患】

今年4月から小児科に加わった衣川が担当。心エコー・3D造影CT・心カテなど最新の機器を駆使して診断し、手術は実績ある循環器外科医の松浦が実施するという体制で、すでに数例の重症な先天性心疾患の外科手術を施行しております。川崎病や学校健診にも力を注いでいきたいと思っております。

【アレルギー・膠原病】

中山が中心となり、喘息・アトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患と、膠原病などの自己免疫疾患を専門外来と入院病棟で治療しております。

【てんかん・神経】

脳波を中心としたてんかん外来を立野が担当しております。

当院小児科病棟は25床で、そのうち4床は親御さんが付き添いできない乳幼児のためのベッドです。

また当院には札幌市の委託を受けて、病気の子供を保育する「子供デイサービス」を併設しており、働く母親を少しでも支援したいと考えております。

さらに当院小児科病棟には平岸西小学校の「院内学級」があり、年間20〜30人の病気の児童が治療を受けつつ勉強ががんばっています。

この様に、一般の外来や入院のほかに周産期医療・慢性疾患医療、さらに子供デイサービス、付き添いの必要のないベッドそして院内学級等、より安心して治療が受けられますよう体制を整え地域医療に貢献し、子育てを支援していきたいと考えております。



なかのしま健康フェア

福祉機器・介護用品の展示、みなさんの作品展示、健康相談などを行います。

日時：11月4日(火)～7日(金)
9:00～17:00

(健康相談は10:30～15:00)

場所：病院1階グリーンモール



子供デイサービスとは？

乳幼児健康支援事業であり、病気の回復期にあつて集団生活が困難なお子さんを勤務の都合・傷病・事故・出産及び冠婚葬祭などの理由によつて家庭で保育できない保護者に代わつて、一時的にお子様をお預かりするものであり、札幌市が子育てと就労の両立支援を目的として行う事業です。（お子様が病気であることが利用条件です）

札幌市内にお住まいの生後5ヶ月から就学前までのお子さんで、午前8時から午後6時までお預かりしますが、定員1日4名で予約制になっています。料金は1日2,300円（給食・おやつ代を含む）です。生活保護世帯及び市・道民税非課税世帯の場合は300円、所得税非課税世帯の場合は1,300円となっています。

北海道社会保険病院こどもデイサービスセンターは開設3年目を迎えました。新規登録者やリピーターも増えていきます。小児科医師・看護師、そして保育士が一丸となつて取り組んでいますので、よろしくお願ひいたします。

【保育士 鈴木千珠】

子育て相談を行っています

新しい外来棟の正面玄関から入り

エスカレーターで2階に行くと、左手横から後方へ耳鼻科外来があり、その隣に産婦人科外来そして一番奥に小児科外来があります。病院内でも特に子供さん達のにぎやかな（泣き）声が聞こえる一角です。

今年6月より2階東側待合ホールの一部を使い、子育て何でも相談を行っています。元小児科病棟の婦長さんが、少しでも子育て中のご家族の助けになればと、ボランティアをかつて出てくださいました。ご自分も2人の子供さんを育て、今はお孫さんの育児を経験中です。「解決の難しい悩みも話しているうちに糸口が見えてくるかもしれません。ぜひ声をかけてください」とおっしゃっています。

産婦人科外来では妊娠・分娩・産褥について、助産師による相談を行っています。妊娠と診断された時から病棟の助産師と顔見知りになつて、安心してお産に臨んでいただければと思ひ今年5月より始めました。妊娠中や産褥期の注意事項、赤ちゃんについてもベテランの助産師がお答えしております。また、産後1ヶ月検診は木曜日予約になつていて、お母さんは産婦人科を受診し、赤ちゃんは小児科を受診するので、同じ時期にお産をされた方が集まる為、お母さん同士の情報交換の場にもなっています。今後もお母さんの子育てにスタッフが少しでも力になればと皆で頑張っています。気軽に声を

かけて下さい。

子育て相談

月・木 10:00～12:00

助産師相談

月・金 10:00～11:30

【小児科・産婦人科病棟科長

南雲ひとみ】

こんこちは、こちらには院内学級です

みなさんは、院内学級がどこにあるかご存じですか？

そうです4階小児科病棟の北側にあり、とても良い環境にあります。

教室の窓からは、豊平川の河畔や藻岩山、円山、手稲山までも見えます。

今年オープンしたJRTタワーも見えるのを、みなさんご存じでしたか。

病棟の中で過ごしている子どもたち

ちも、教室の窓から外の景色を見て、

天気の変化、季節の変化を感じ取りながら、いろいろな活動に取り組んでいます。

学級での1日は、花の水やりから始まり、アサガオ、ヒマワリ、ゼラニウムなどが季節ごとに咲いています。

午前中は、国語と算数の学習が中心で、それぞれの学校の進度に合わせて取り組みます。午後からは体育、図工、音楽、家庭科、チャレンジタイムなど、楽しみ

編集後記

今月号は小児科の特集をしました。詳しく知りたい方は関係部署の病院職員に気軽にお尋ね下さい。

編集責任者
事務局 後藤 英昭

北海道社会保険病院
TEL : 011-831-5151

URL : <http://www.hok-shaho-hsp.jp/>

ながら考える力が育つような活動をしていきます。たとえば音楽はハンドベルの演奏、体育では昔遊びやパットゴルフ風ゲーム、家庭科ではコースターやかご作りなどに取り組みんでいます。子どもたちにとっては午後の活動の方が楽しみのようです。

私はこの4月から院内学級に来ましたが、心と体が安心出来る場所にしたと、子どもたちの生きる力からパワーをもらい、病棟スタッフのみなさんに支えられながら過ごしています。

【昭和62年開設以来昨年までの16年間に1100人以上の小学生が通学してきております。】

【専任教諭 五十嵐百合子】